



平成 28 年 4 月 28 日

各 位

本社所在地 東京都新宿区北新宿二丁目 21 番 1 号
会社名 健康コーポレーション株式会社
代表者 代表取締役社長 瀬戸 健
コード番号 2928 札幌証券取引所アンビシヤス
問合せ先 取締役 香西 哲雄
電話番号 03-5337-1337
U R L <http://www.kenkoucorp.co.jp/>

体型補整下着の販売を手掛けるマルコ株式会社との資本業務提携契約の締結及び それに伴う第三者割当増資の引受けによる子会社の異動に関するお知らせ

当社は、平成28年4月28日開催の取締役会において、マルコ株式会社（東京証券取引所 市場第二部 コード番号 9980、以下「マルコ」という。）との間で資本業務提携契約（以下「本資本業務提携契約」といい、同契約に基づく資本業務提携を「本提携」という。）を締結し、マルコの実施する第三者割当増資（以下「本第三者割当増資」という。）を引受けること及びマルコの子会社化を決議しましたので、お知らせいたします。

なお、本第三者割当増資については、平成28年6月28日開催予定のマルコ定時株主総会（以下「本定時株主総会」という。）において承認されること、及び公正取引委員会による承認が得られることを条件としております。

記

1. 本資本業務提携契約

1. 資本業務提携の理由

当社グループは、「自己投資産業 No.1」をグループビジョンとして掲げ、美容・健康関連事業、アパレル関連事業、住関連ライフスタイル事業、エンターテイメント事業を展開しており、なかでも、パーソナルトレーニングジム

「RIZAP」を中心とした美容・健康関連事業が業績の牽引役となっております。また、新規事業「RIZAP GOLF」も既に東京都内に3店舗出店し、好調に推移しております。このような中で、最も重要な事業領域である美容・健康関連事業の業容を更に拡大すべく、商品・サービスの拡充を検討するとともに、「RIZAP」とのシナジー効果の高い新たな提携先の検討を重ねてまいりました。

一方、マルコは、昭和53年に日本ではじめてプロポーシオンを整えるための“体型補整下着”を完成させました。以来、女性の美を追求し続け、よりクオリティの高い商品開発やマルコ独自の体型補整概念に基づくボディメイクとコンサルテーションを中心としたきめ細かなサービスを実践してきました。現在では約49万人の会員を抱えるまでに至っております。

しかしながら、平成27年3月期の業績は、当初予想よりも著しく落ち込み、売上高15,578百万円、営業損失470百万円、経常損失403百万円となりました。また、平成28年3月期においても、顧客獲得策として、現会員様向けの新規顧客紹介特典、法人顧客の従業員様向けセミナーの開催、体型補整を実感していただくための無料モニター制度、顧客の再来店促進策としてメールマガジンの活用等の施策を行っておりますが、依然として厳しい状況が続いており、大幅な営業損失及び経常損失を計上することを予定しており、新規顧客獲得のための効果的なマーケティング活動及び宣伝広告活動を行うことのできる体制を早期に確立していくことが急務となっているとのことです。

そのような中、従前より、マルコの筆頭株主である伊藤忠商事株式会社（以下「伊藤忠商事」といいます。）の意向

もあり、同社の企業価値向上に繋がる抜本的な資本構成の見直し及び課題解決のための新たなビジネスパートナーの模索を行い、複数社の様々な候補先が検討される中で、RIZAP や通販事業で新規顧客獲得のための効果的なマーケティング活動及び広告宣伝活動のノウハウを保有し、子会社である RIZAP 株式会社(以下、「RIZAP 社」という。)を通じてボディメイクメソッドを進化・発展させている当社が、伊藤忠商事より紹介を受けることとなりました。

当社は、RIZAP 及び通信販売で培ってきた最大の強みである広告宣伝による販売力を、マルコが必要としている新規顧客獲得のための効果的なマーケティング活動及び広告宣伝活動において発揮できると考え、更には当社グループ各社とのシナジーを生み出し、マルコの業績を回復させる事で、当社グループ及びマルコの双方の企業価値向上を図ることができると考え、両社で協議を進めてまいりました。

今般、当社とマルコは、平成 28 年 4 月 28 日付で本資本業務提携契約の締結を行うこと、及び本提携の一環としてマルコの新株式 55,000,000 株を第三者割当増資の方法により、同年 7 月 5 日を払込期日として、当社が引き受けることに合意いたしました。

なお、マルコは RIZAP 株式会社との間におけるより効果的なシナジー創出の観点から、1,750 百万円分の RIZAP 株式会社の普通株式の取得を行います。これにより、マルコが強みとする紹介等を通じた店舗運営のノウハウや年間購入会員 6 万人の資産を RIZAP においても有効活用させることで、RIZAP の企業価値向上を図り、ひいては当社グループ及びマルコの企業価値向上に資することになります。また、マルコが当社グループの中核事業である RIZAP 株式を一定割合取得することで、RIZAP との間でより強固な提携関係を構築できるとともに、当該提携関係をより多くの皆様にご認識頂く効果もあると考えております。

2. 資本業務提携の内容等

(1) 資本業務提携の内容

当社及びマルコは、平成 28 年 4 月 28 日付で、本資本業務提携契約を締結いたしました。本資本業務提携契約の概要は、以下のとおりです。

ア. 第三者割当増資

- ① 当社は、マルコの実施する本第三者割当増資を引受ける。
- ② マルコは、RIZAP 株式会社の実施する第三者割当増資を引受ける。

イ. 業務提携

当社及びマルコは、本資本業務提携契約において、下記のとおりマルコと近いビジネスモデルで成長してきた RIZAP のノウハウを最大限活用したシナジーを生み出すことで、顧客基盤を急速に拡大することが可能と見込んでおります。また、両社は、商品等の共同開発、店舗開発情報の共有、広告宣伝・販促活動、人材の相互交流などでの各種施策について、協業を進める中で、検討を進めて参ります。

① マーケティング力の活用

RIZAP は、マルコと同様な高付加価値サービスの店舗ビジネスを展開しておりますが、昨年の CM 好感度ランキング 3 位 (CM 総合研究所発表「CM 好感度調査」) を獲得するなど、卓越したマーケティングにより、その新規顧客層を拡大し続けております。今後は、こうした RIZAP のマーケティングノウハウを最大限活用した積極的な広告宣伝と、マルコの強みである紹介につなげることで一気に顧客基盤を拡大していく予定です。また、PR 活動についても、RIZAP とマルコによる協業など、これまででない PR 施策を実行していく予定です。

② グループ顧客基盤との相互送客

第三者割当増資の割当予定先である当社は、RIZAP や美容通信販売事業に加え、マタニティ・ベビーウェアを扱う株式会社エンジェリーベ、レディースアパレルを扱う株式会社馬里邑、株式会社アンティローザ、夢展望株式会社など、グループ全体で、女性を中心とした約 4 百万人の顧客基盤を持っております。こうした顧客基盤は、マルコのターゲット層との親和性が高いため、多数の相互送客が可能となるものと見込んでおります。

③ RIZAP と連携した新プログラムの開発

RIZAP の顧客基盤は、美に対する意識が高い女性が多いといった点で、マルコと極めて近いターゲット層となっております。また、RIZAP は、適切な運動指導と栄養指導による体重・体脂肪率の減少の短期達成を強みとしており、

マルコの補整下着によって、その引き締まった体型を維持していくことが実現できると思っております。こうした双方の強みを持ち寄ることで、従来なかった画期的な女性向けのプログラムメソッドを開発し、全国のマルコ及び、RIZAP店舗において、大々的に展開していくことを検討しております。

上記のとおり、マルコの顧客基盤拡大に向け、RIZAPを中心に当社と極めて高いシナジー効果が見込めるものと確信しております。

なお、協業をスムーズに進める観点から、当社の指定する3名を、本第三者割当増資に係る払込みを行うことを条件として取締役として選任する旨の議案を平成28年6月28日開催予定の本定時株主総会に上程することを合意しております。

また当社は、グループ商材を活用した積極的な株主優待や配当政策を実施し、株主還元に取り組んでおります。マルコとしても、本第三者割当増資実施の後、当社にならい、これまで以上に積極的に株主優待及び配当政策に取り組んでいくとのことです。

(2) 本第三者割当増資の引受けの内容

ア. 当社が引受けるマルコが実施する本第三者割当増資の内容

- ① 払込期日 平成28年7月5日
- ② 引受株式数 普通株式55,000,000株
- ③ 払込金額 1株につき金50円
- ④ 払込金額の総額 金2,750,000,000円

イ. マルコが引受けるRIZAP株式会社が実施する第三者割当増資の内容

- ① 払込期日 平成28年7月15日(予定)
- ② 引受株式数 普通株式1,750株
- ③ 払込金額 1株につき金1,000,000円
- ④ 払込金額の総額 金1,750,000,000円
- ⑤ 異動前の所有株式数 一株(議決権の数:一個)
(議決権所有割合:1%)
- ⑥ 第三者割当増資の引受けによる取得株式数 1,750株(議決権の数:1,750個)
(取得価額:1,750,000,000円)
- ⑦ 異動後の所有株式数 1,750株(議決権の数:1,750個)
(議決権所有割合:2.14%)

3. 資本業務提携の相手方の概要

① 名称	マルコ株式会社	
② 所在地	大阪府大阪市中央区瓦町二丁目2番9号	
③ 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 朝倉 英文	
④ 事業内容	体型補整用婦人下着の販売、化粧品の販売、健康食品の販売	
⑤ 資本金	23億3,272万円	
⑥ 設立年月日	昭和53年4月22日	
⑦ 大株主及び持株比率 (平成28年3月31日現在)	伊藤忠商事株式会社	25.13%
	正岡規代	10.61%
	マルコ社員持株会	6.31%
	梶村絹子	4.21%
	正岡昌子	4.21%
	石川誠	0.78%
	池田豊治	0.71%
	阪田和弘	0.58%
	鎌田龍太郎	0.50%
	松波省一	0.41%

⑧ 当社との関係等				
資 本 関 係	当社と当該会社との間には、記載すべき資本関係はありません。			
人 的 関 係	当社と当該会社との間には、記載すべき人的関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該会社の関係者及び関係会社の間には、人的関係はありません。			
取 引 関 係	当社と当該会社との間には、記載すべき取引関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該会社の関係者及び関係会社の間には、取引関係はありません。			
関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	当該会社は、当社の関連当事者には該当しません。また、当該会社の関係者及び関係会社は、当社の関連当事者には該当しません。			
⑨ 最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態				
決 算 期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期	
純 資 産	9,161,637千円	9,209,192千円	8,866,259千円	
総 資 産	13,044,695千円	13,911,658千円	12,746,113千円	
1株当たり純資産	300.58円	302.14円	290.89円	
売 上 高	9,608,518千円	17,021,817千円	15,578,784千円	
営 業 利 益 (△は損失)	439,814千円	670,250千円	△470,442千円	
経 常 利 益 (△は損失)	474,130千円	733,605千円	△403,629千円	
当 期 純 利 益 (△は損失)	220,378千円	291,267千円	△489,517千円	
1株当たり当期純利益(△は損失)	7.23円	9.56円	△16.06円	
1株当たり配当金	4.00円	8.00円	6.00円	

4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

① 異 動 前 の 所 有 株 式 数	一株 (議決権の数：一個) (議決権所有割合：一%)
② 第三者割当増資の引受けによる取得株式数	55,000,000株 (議決権の数：550,000個) (取得価額：2,750,000,000円)
③ 異 動 後 の 所 有 株 式 数	55,000,000株 (議決権の数：550,000個) (議決権所有割合：64.36%)

5. 資本業務提携の日程

平成28年4月28日	取締役会決議
平成28年4月28日	本資本業務提携契約の締結

6. 今後の見通し

本資本業務提携契約の締結及び本第三者割当増資の引受けに伴い、マルコは、平成29年3月期の連結決算において当社の連結子会社となる予定です。

本件が当社の連結業績に与える影響については精査中であり、平成29年3月期の連結業績予想に織り込む予定でありません。

II. 子会社の異動

1. 異動の理由及び方法

当社は、平成28年7月5日に予定されている本第三者割当増資の払込により、マルコの普通株式55,000,000株(本第三者割当増資後の発行済株式総数(87,047,071株)に対する割合63.18%、議決権割合64.36%、小数点以下第3位四捨五入)を取得し、同日付でマルコは当社の子会社となる予定です。

詳細につきましては、上記「I. 1. 資本業務提携の理由」及び「I. 2. 資本業務提携の内容等」をご参照ください。

2. 異動する子会社の概要

新たに子会社となる会社 マルコ株式会社

同社の概要につきましては、上記「I. 3. 資本業務提携の相手方の概要」をご参照ください。

3. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況については、上記「I. 4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況」をご参照ください。

4. 日程

日程につきましては、上記「I. 5. 資本業務提携の日程」をご参照ください。

5. 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、上記「I. 6. 今後の見通し」をご参照ください。

以 上